

2018 年度後期 代数学 IV/代数学概論 IV 01 月 10 日分レポート問題^{*1}

担当: 柳田伸太郎 (理学部 A 館 441 号室)

yanagida[at]math.nagoya-u.ac.jp

https://www.math.nagoya-u.ac.jp/~yanagida

11 複素トーラスと Abel 多様体

11.1 複素トーラス

定義. g 次元 \mathbb{C} 線形空間 V の階数 $2g$ の格子 Λ による商空間 V/Λ は g 次元コンパクト複素多様体である. これを g 次元複素トーラスと呼ぶ.

補題 11.1.1. $\Lambda = \sum_{i=1}^{2g} \mathbb{Z}\lambda_i \subset V$ が階数 $2g$ の V の格子 $\iff \det(\Omega, \bar{\Omega}) \neq 0$. ただし Ω は次のように与えられる $2g \times g$ 行列: $\lambda_i = \sum_{j=1}^g a_{i,j}e_j$ と展開して, $\Omega := (a_{i,j})_{1 \leq i \leq 2g, 1 \leq j \leq g}$.

問題 11.1 (*). 補題 11.1.1 を示せ.

定義. 補題 11.1.1 の $\Omega := (a_{i,j}) \in \text{Mat}(2g \times g, \mathbb{C})$ を複素トーラス $T = V/\Lambda$ の周期行列と呼ぶ.

問題 11.2 (**). V_1/Λ_1 と V_2/Λ_2 を g 次元複素トーラスとする. 複素多様体としての正則写像 $V_1/\Lambda_1 \rightarrow V_2/\Lambda_2$ は全て, 線形写像 $f: V_1 \rightarrow V_2$ と V_2/Λ_2 の平行移動の合成であることを示せ.

系 (命題 11.1.2 の系). $\mathfrak{M} := \{\Omega \in \text{Mat}(2g \times g, \mathbb{C}) \mid \det(\Omega, \bar{\Omega}) \neq 0\}$, $\mathfrak{T}_g := \text{GL}(2g, \mathbb{Z}) \backslash \mathfrak{M} / \text{GL}(g, \mathbb{C})$ と定めると $\mathfrak{T}_g = \{g \text{ 次元複素トーラス}\} / \overset{\text{同型}}{\simeq}$.

問題 11.3 (***). $\mathfrak{M} \subset \text{Mat}(2g \times g, \mathbb{C})$ の位相を $\text{Mat}(2g \times g, \mathbb{C}) \simeq \mathbb{C}^{2g^2}$ の Euclid 位相の相対位相とし, \mathfrak{T}_g の位相をその商位相で定める. このとき, $g \geq 2$ では \mathfrak{T}_g は Hausdorff 空間でないことを, $P := \begin{pmatrix} \sqrt{-1}I_g \\ I_g \end{pmatrix} \in \mathfrak{M}$ の同値類 $[P] \in \mathfrak{T}_g$ を考えることで示せ. 但し I_g は g 次元単位行列.

11.2 Abel 多様体

補題 11.2.2. 複素多様体 M 上の階数 r のベクトル束 V に対し, 次の手順で M 上の層 \mathfrak{F}_V が定まる.

- (i) $\pi: V \rightarrow M$ をベクトル束から底空間への射影とする. 開集合 $U \subset V$ に対し, $f \circ s = \text{id}_U$ となる複素多様体の正則写像 $s: U \rightarrow X$. のことを π の U 上の切断と呼ぶ.
- (ii) $U \mapsto \{\pi \text{ の } U \text{ 上の切断}\}$ で定まる前層 \mathfrak{F}_V は層である.

また, \mathcal{O}_M を M (に付随する複素解析空間) の構造層として, \mathfrak{F}_V は階数 r の局所自由 \mathcal{O}_M 加群層である.

問題 11.4 (**). 補題 11.2.2 を証明せよ.

問題 11.5 (**). 複素多様体 \mathbb{C}^g 上の直線束は自明なベクトル束 $\mathbb{C}^g \times \mathbb{C}$ しかないことを示せ.

問題 11.6 (*). 等式 (11.2) を示せ.

問題 11.7 (*). 定理 11.2.6 の証明で用いられ式 (11.3) と (11.4) を導け.

^{*1} 2018/12/24 版, ver. 0.1.

11.3 偏極 Abel 多様体

補題 11.3.1 (Frobenius の定理). Λ の基底 $\{\gamma_1, \dots, \gamma_{2g}\}$ を適当に取り直して, 行列 $E = (A(\gamma_i, \gamma_j))_{i,j}$ を次の形にできる.

$$E = \begin{pmatrix} 0 & \Delta \\ -\Delta & 0 \end{pmatrix}, \quad \Delta = \text{diag}(d_1, d_2, \dots, d_g), \quad d_i \in \mathbb{Z}_{>0} \text{ かつ } d_1 \mid d_2 \mid \dots \mid d_g$$

問題 11.8 ().** 単因子論を用いて補題 11.3.1 を示せ.

補題 11.3.2. E が補題 11.3.1 の標準形するとき, Λ の基底 $\{\gamma_1, \dots, \gamma_{2g}\}$ を適当に取り直して, 周期行列 Ω を

$$\Omega = \begin{pmatrix} \tau \Delta^{-1} \\ I_g \end{pmatrix}$$

の形にできる. ここで $\tau \in \text{Mat}(g, \mathbb{C})$ は ${}^t\tau = \tau$ かつ $\text{Im } \tau > 0$ を満たすもの. また I_g は g 次単位行列.

問題 11.9 ().** 補題 11.3.2 の証明で用いられる $\det \Omega_2 \neq 0$ および式 (11.7) を示せ.

定義. 次で定まる \mathfrak{H}_g を g 次 **Siegel** 上半空間 (Siegel upper half space) と呼ぶ.

$$\mathfrak{H}_g := \{\tau \in \text{Mat}(g, \mathbb{C}) \mid {}^t\tau = \tau, \text{Im } \tau > 0\}.$$

定義. 次で定まる群 $\text{Sp}(\Delta, \mathbb{Z})$ を **パラモジュラー群** と呼ぶ.

$$\text{Sp}(\Delta, \mathbb{Z}) := \left\{ M \in \text{GL}(2g, \mathbb{Z}) \mid M \begin{pmatrix} 0 & \Delta \\ -\Delta & 0 \end{pmatrix} {}^t M = \begin{pmatrix} 0 & \Delta \\ -\Delta & 0 \end{pmatrix} \right\}.$$

特に $\text{Sp}(I_g, \mathbb{Z})$ を g 次整シンプレクティック群 または **Siegel** モジュラー群 と呼ぶ.

$\text{Sp}(\Delta, \mathbb{Z})$ の \mathfrak{H}_g への作用は次のように記述できる.

補題. $M \in \text{Sp}(\Delta, \mathbb{Z})$ を

$$M = \begin{pmatrix} \alpha & \beta \\ \gamma & \delta \end{pmatrix}, \quad \alpha, \beta, \gamma, \delta \in \text{Mat}(g, \mathbb{C})$$

とブロック分解すると, Ω は M の作用で

$$\Omega = \begin{pmatrix} \tilde{\tau} \\ I_g \end{pmatrix} \mapsto \begin{pmatrix} \tilde{\tau}' \\ I_g \end{pmatrix}, \quad \tilde{\tau}' = (\alpha\tau + \beta)(\gamma\tau + \delta)^{-1} \quad (11.8)$$

に写る. 従って M の \mathfrak{H}_g への作用は次のように書ける.

$$\mathfrak{H}_g \ni \tau \mapsto \tau' := (\alpha\tau + \beta\Delta)(\gamma\tau + \delta\Delta)^{-1}\Delta.$$

問題 11.10 (*). 式 (11.8) を示せ.

連絡事項

レポートの締め切りは

- 修士 2 年生の方は次回 1/17 (木) の講義終了時刻
- その他の方は 1/24 (木) の講義終了時刻

とします.

以上です.